

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立新居浜南高等学校

学校番号 (6)

評 価 実 施 日	令和6年2月20日(火)	
委員(11名)	所 属 等	備 考
	学校関係者評価委員 (総合学科育成会会長)	
	学校関係者評価委員 (PTA会長)	
	学校関係者評価委員 (総合学科育成会副会長)	
	学校関係者評価委員 (PTA副会長)	
	学校関係者評価委員 (PTA副会長)	
	学校関係者評価委員 (PTA副会長)	
	学校評議員	
	学校評議員	
	学校評議員	
	学校評議員	
	学校評議員	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>1 組織運営等</p> <p>○運営面では不安に思ったことはない。</p> <p>○総合学科ならではの業務も教職員の負担増につながっていると思われる。一部教職員だけに偏ることのない分掌の平準化の一層の推進が必要と思われる。</p> <p>○体育祭や文化祭等で拝見し、教職員がそれぞれの持ち場で積極的に活動しており、全教職員が一丸となって学校運営に携わっている様子がうかがえた。</p>	<p>○コロナ禍を経験し、業務の精選や方法の選択など、教職員の働き方改革に結び付けつつ、教育効果を高めていきたい。</p> <p>○教職員の協働する場面を増やす中で、コミュニケーションの活性化を図り、それぞれの力を発揮できるような職場環境を目指したい。</p>
<p>2 教育課程・学習指導</p> <p>○丁寧な指導、学校全体の雰囲気良さそうである。</p> <p>○ICTを積極的に活用し、授業改善を図っている様子がうかがえる。</p> <p>○授業に関する生徒のアンケートは依然として高い数値を維持しており、充実した授業が行われていることが推察できる。授業は学校教育の根本であるから、授業の満足度が高いことは何よりも評価されるべきことだと思う。</p>	<p>○新学習指導要領による教育課程の実践の中で、総合学科の特色を反映した教育についてより深く探究していく。</p> <p>○コロナ禍で活用できたリモート等の授業方法や生徒一人1台端末を活用した個別最適化された教育の実践を推進し、全教職員がICT関連のスキルアップを図る。</p> <p>○学習習慣の定着を促す上で、ICT機器の活用と対面指導それぞれの良さを認識し、状況に応じた実践を進めていく。</p>

<p>3 生徒指導</p> <p>○生徒課長の指導の下、よく生徒を教育できていると思う。</p> <p>○おおむね良好と思われるが、一部生徒や保護者に対する個別支援が今後重要度が増してくるであろう。</p>	<p>○生徒一人一人を大切にされた適切な生徒指導を継続していく。</p> <p>○交通安全に対する意識をさらに向上させ、法令遵守、マナーの向上について生徒が主体となって危機管理できるような指導を実践する。</p>
<p>4 進路指導</p> <p>○生徒たちもすごいなと感心した。</p> <p>○クラス担任と相談できる機会を何度も設けられ、適切な進路指導につながっている。</p> <p>○進路選択の幅が広がってきており、生徒だけでなく、保護者に対しても情報を積極的に提供していく必要がある。</p> <p>○就職内定率100%、進学合格率100%で、進路指導の成果も上がっている。</p>	<p>○今後も、高校3年間を見通した進路指導を推進し、生徒個々の進路実現に結び付けていく。</p> <p>○総合学科の特色を生かした学習指導を実践し、それぞれの系列ならではの進路指導を推進する。</p> <p>○組織としての指導の在り方を研究し、教員の負担感の軽減と並行しながらも効率的・効果的な進路指導を推進する。</p>
<p>5 特別活動・ボランティア活動</p> <p>○学校のホームページを見て楽しんでいる。</p> <p>○地域共創系列やユネスコ部の積極的な活動もあり、今後も続けてほしい。</p> <p>○生徒の主体的な活動を後押ししている様子がうかがえる。ボランティア活動が一部のみでなく全体に広がっていくことを期待する。</p> <p>○ボランティア活動は、地域と連携して活発に行われていると思う。</p>	<p>○ボランティア活動の場面では、まだ感染症予防のための行動制限が一部残っている中で、少しずつではあるが、従前のような活動規模に戻していきたい。</p> <p>○運動部・文化部ともに加入を促進し、生徒の活動を熱源に、学校全体の雰囲気さらに活性化していく。</p>
<p>6 保健管理</p> <p>○健康・安全に関する生徒の意識向上を図るための日常的な働きかけが重要である。</p>	<p>○自然災害への備えをはじめ、防災教育を含めた安全教育を推進するとともに、危機管理マニュアルを常に更新できるように必要な研修等を実践していく。</p> <p>○施設・設備を常に点検し、必要な整備を進め、安全・安心な教育環境を維持していく。</p>
<p>7 人権・同和教育、特別支援教育</p> <p>○人権・同和教育講演会に出席し、非常に参考になった。</p> <p>○若年教職員の中には自身が十分な学びをしてきていない者がいることを踏まえた教職員研修を計画的に実施する必要がある。</p>	<p>○人権問題について、生徒・家庭・教職員全体で共通理解を図り、人権意識に根差した言動を指導していく。</p> <p>○人権だより「皆見(みなみ)」を継続して発行し、生徒や家庭の人権意識の高揚に結び付け、啓発活動に努める。</p>

<p>8 図書・研修</p> <p>○図書館の環境が良く、本を手に取りやすそうである。</p> <p>○読書量の少なさは、小・中においても課題となっている。デジタル図書の活用等、新たな取組を計画していく時期なのかも知れない。</p> <p>○貸出冊数は令和2年度頃から低下傾向にあったが、今年度は最低になっている。しかし、これは本校の図書館教育のせいではなく、活字離れ・読書離れが進行している時代の趨勢によるものだろう。旧来の図書館の役割や在り方を再検討する時期に来ているのかも知れない。</p>	<p>○図書館利用の在り方や利用促進の方法についてさらに工夫して、図書館の魅力化を推し進めていく。</p> <p>○デジタル図書について、有用性を認めつつ、視力等を含めた健康面への影響など、今後の研究が必要である。</p> <p>○朝の読書の時間において継続可能な読書習慣を定着させことを貸出冊数の増加に結び付ける一つの方策としていく。</p>
<p>9 ICT（情報通信技術）教育</p> <p>○ICTの活用は特別なことではなくなってきたが、「使わなければならない」という強迫観念ではなく、「使うとこんな効果がある」という意識で使っていければよい。</p>	<p>○ICT機器を活用した授業を推進してきた結果、実際の活用実績は上がってきている。「やってみると使えた」教員からの研修など、工夫して活用を促進していく。</p>
<p>10 教育相談</p> <p>○クラス担任の指導が手厚かった。</p> <p>○心理面で専門家の力を借りるケースも増えてくると思われるが、心理検査等を活用して、表に出てくる前に対応できる体制を作ることも一つの方法と考える。</p> <p>○相談件数は「数件」で、それも本人からではなく、クラス担任や部活動顧問からだたとされている。これから判断すると、本校では問題を抱えている生徒がほとんどいないと受け止めることができるが、同時に教育相談が十分に機能していないのではないかとも思われ、判断に迷った。深刻な問題を抱えている生徒は表に現れにくい傾向にあるので、相談件数が少ないことをもって良しとするわけにはいかないだろう。</p>	<p>○スクールライフアドバイザーが生徒や保護者との相談業務に当たっている。その活用方法をさらに広報していき、利用を促進していきたい。</p> <p>○ICTを活用したアンケートからの把握や面談等で、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に引き続き努めていく。</p> <p>○関係教職員間での情報の共有の在り方を工夫し、密に連携して課題に対応していく。</p>
<p>11 保護者、地域住民との連携</p> <p>○ボランティアとしての手伝いなど良いと思う。</p> <p>○PTA通信や人権だより等で情報がよく伝達されている。地域住民との連携ももっと行うことができる分野もあると思う。</p> <p>○地域、保護者とともに学校づくりを推進するという意識を全教職員が共通できるとよい。</p>	<p>○コロナ禍から脱し、徐々に地域等との交流や連携が回復基調であり、従前の活動が期待できる。</p> <p>○地元の角野公民館等、以前にも増して地域と連携を図り、各種学校行事の盛り上がりや各系列の特色につなげていく。</p>

<p>12 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間（ライフスタディⅠ・Ⅱ）」等</p> <p>○発表会はととてもすばらしいと思う。</p> <p>○生徒たちと教員の努力がうかがえる。大変だと思うが今後も続けてほしい。</p> <p>○高校におけるキャリア教育は中学校以上に重要であろう。より効果的な実践がなされることを期待している。</p>	<p>○本校の特色ある行事「ライフスタディⅡ」発表会で、今までと同様に、多くの方々から賞賛を得られるように探究活動を推し進めていく。</p>
<p>13 事務管理</p> <p>○いつも感謝している。</p> <p>○電話対応は丁寧であると感じる。上司や関係者への報告を確実に行ってほしい。</p>	<p>○業務全体の効率化を図り、本校の「顔」として愛顔(えがお)の丁寧な接遇に努める。</p>
<p>14 総合評価、提言等</p> <p>○読みやすい資料で楽しめた。</p> <p>○地域共創系列の公開授業にまた参加したい。</p> <p>○校長をはじめ、各教員のアドバイスに大変感謝している。</p> <p>○総合学科であるが故の大変さもあると思うが、生徒たちにとっても貴重な学びを得られるすばらしい学校だと思っている。これからも教職員の導きで将来の新居浜を担う生徒たちを育てていただけたらと思う。よろしく願いいたします。</p> <p>○「学校評価に関するアンケート」と「自己評価表」で前年比で、生徒対象と教職員対象がマイナスに注目するが、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律上の5類に移行したことによる学校内(生徒と教職員)の真剣な試行錯誤や戸惑いの結果だと解釈した。</p> <p>○授業に関するアンケート(生徒用)集計結果の質問項目「生徒一人一人に配布したパソコンを授業で効果的に活用している」「同パソコンを家庭学習(課題や個別指導)で効果的に活用している」の評価D(そうは思わない)のパーセント数値が高いことは、新しい学習方法への反省や戸惑いの表れではないだろうか。</p> <p>○学校関係者評価委員会・学校評議員会において、PTA副会長が「南高へ入学させてよかった」とおっしゃった。この言葉に感動した。</p> <p>○私が身近に接する生徒はユネスコ部と地域共創系列の皆さんである。挨拶・態度・発言力・アイデア等々、いつも感心している。顧問の教員は、それぞれの会の始まりに少しかだけ話をするが、その他は生徒の発表を後ろで黙って見守られている。生徒たちの驚くほど、立派に学習した事、考えた事を堂々と発表する。「若い力」にすばらしさを感じる。</p>	<p>○学校関係者評価委員会において、昨年度の「地域になくはない南高」や今年度の「南高に入学させてよかった」という、言葉にできないほどうれしい賞賛のお言葉を今後もいただけるように地道で前向きな活動を進めて行きたい。</p>

○(本校の活動を紹介する新聞記事を添付され)うれしい記事である。(その中で「生徒が自発的に考えて行動し、大人が支える」を指され)別子銅山の総理事・伊庭貞剛の言葉を思い出した。『事業の進歩発達に最も害をするものは、青年の過失ではなくて老人の跋扈(ばっこ)である』

○「南高マニフェスト」から数値目標が削除された。数値目標は学校の教育目標としてはなじまないと考えているので、我が意を得た思いがした。学校運営基本方針もユニークで時代にマッチしている。

○以前と同様で、生徒・保護者への学校評価に関するアンケートの設問の中には、回答が無理だと思われる項目がいくつかある。内容や表現を工夫する必要があるのではないだろうか。

○自己評価表では、「出席率の向上」と「ボランティア活動」の評価が最低のE(成果がなかった)となっているが、これらの評価は実態と乖離していると思われる。原因は、評価(A~E)の基準となる数値が高過ぎ、数値が独り歩きしているせいだと思う。

○現在行われている全体評価と同時に生徒一人一人が3年間にどのように変容したかを知る「個別評価」も大切だと思う。全体評価で個々の生徒の実態は把握できないからである。

○授業に関するアンケート(生徒用)において、家庭学習時間や図書貸出冊数の調査のように学年ごとの分析が望まれる。また、同一学年の学年進行による対比をすれば生徒の成長の様子がよく分かり、興味がある。データはそろって処理するだけのことであるから容易にできると思う。

○現在の南高生は、身だしなみ・授業態度・挨拶などの点においても申し分ない。かつて本校に身を置いた者として、よくぞここまで変わったものだといつも感心しているが、その反面では、少しおとなしくなり過ぎているのではないかという物足りなさを感じる。高校生なのだからもっとやんちゃであっていいのではないだろうか。

○毎年綿密な学校評価が行われていて、教職員の努力に敬意を表する。